

週刊新潮の記事より

<http://mimizun.com/search/perl/dattohtml.pl?http://mimizun.com/log/2ch/books/love6.2ch.net/books/kako/1179/11799/1179986186.dat>

206 : 無名草子さん : 2007/06/16(土) 14:26:33

作家で朝日新聞の書評委員をつとめる唐沢俊一氏(49)、その新刊本にブログからの盗用疑惑が浮上した。ブログ主宰者の抗議で、ネット上では“祭り”状態に。ご本人も、対応にはホトホト苦慮しているようである。

唐沢氏は、人気番組『トリビアの泉～素晴らしきムダ知識～』(フジ)のスーパーパイザーで、サブカルチャーやカルトなどに詳しい。

先月、上梓した『新・UFO入門』(幻冬舎新書)は、言わばUFOの歴史を纏めた一冊だ。その一部に対し、ネット上で漫画関係の話題を公開している、『漫棚通信ブログ版』から「これは盗作とちゃうんかいっ」と指摘されたのだ。

問題となったのは『少年ケニヤ』の原作者として知られる山川惣治とUFOの関わりを描いた部分(133～140頁)である。

その一例を紹介すると、『新・UFO入門』は、山川はもともと円盤に興味があり、実在を確信して『少年エース』という作品内に円盤を登場させたところ、CBAから接触があり、彼らから宇宙人とのテレコン(テレパシー・コンタクトの意)を勧められたという

と記述しているのに対し、『漫棚通信』では、山川惣治はもともと円盤に興味があり、実在を確信して「少年エース」という作品内に円盤を登場させたところ、CBA(宇宙友好協会=Cosmic Brotherhood Association)から接触があり、彼らからテレパシー・コンタクト、略してテレコンをすすめられたという経緯

まさに瓜二つ。これは似てるというレベルじゃねえぞっっ!!! と『漫棚通信』は怒り心頭なのだ。さらに、

「ミリオンは、インカ帝国の末裔たちの生活のため、インカの宝物を売って資金を得る(いいのか?)」(『新・UFO入門』)

「ミリオンは、インカ帝国の末裔たちの生活のため、インカの宝物を売って資金を得ます(ちょっとどうか)」(『漫棚通信』)

と、突っ込みどころまで同じ。問題にされた8頁は、殆ど『漫棚通信』からのパクリ。『漫棚通信』は4日、唐沢氏と版元に抗議メールを送ったのである。

対応に苦慮

「今回は、私が大きなボカをしてしまいました」

と、当の唐沢氏は平身低頭する。

「通常は、内容紹介の文が過剰な引用にならないようチェックしていますが、私のミスでその作業を怠った。最後に参考文献や資料などの一覧を付けるのも忘れてしまいました。無断引用したということについては全面的に認めています」

今後は、問題部分を削除し、書き直しをする予定。

書評委員をつとめる朝日に対しては、当分、原稿を自粛したいと申し入れた。

「ただ、私は漫棚通信さんのブログだけを見て、原稿を書いたのではない。資料は、ちゃんと手元にあります。漫棚通信さんには、お目にかかって直接、お詫びしたいです。しかし、名前もわかりませんし、メールでのやりとりしか応じてもらえないのは残念です」

唐沢氏の知人が言う。

「ネット上では様々な意見が出て“祭り”状態ですが、資料なしに最初から盗用を意図していた、と唐沢氏に認めさせるといふ雰囲気。おかげで先方もかなり強気で、話し合いがなかなか進まない。対応に苦慮しているという状態です」

身から出たサビとは言え、これが、ネット社会の怖さでもある。

---

■ [「週刊新潮」記事に対する大森望の意見](#)

---